

第1回「宗教と環境」研究会を開催

佐藤孝則

おやさと研究所では、深化し多様化しつつあるグローバルでローカルな環境問題に、以前より強い関心を抱いてきた。とくに途上国では環境問題として俎上に上がらないほど状況が深刻化するなかで、この問題は、自然科学のみならず人文・社会科学など広い分野に関連し、その合力によって解決すべき課題と考えてきた。

その中であって、宗教者としていかにあるべきかをさまざまな視点から議論することが重要であると認識し、解決のための具体的方策を検討して導き出すことが必要であると考え、『宗教と環境』研究会を立ち上げることとなった。

この研究会では、「環境問題における宗教者の果たすべき役割」を研究テーマに設定し、本年から平成26年度にかけてさまざまな研究者・実践者からこのテーマに関するご意見を頂戴し、おやさと研究所員との意見交換をおこなう企画としてスタートすることになった。統一テーマとは別に、毎回、小テーマを設定して議論することとしている。

10月27日(土)、その第1回目の研究会をおやさと研究所の会議室で開催した。小テーマは「地球温暖化問題に対する宗教者の役割」で、早淵百合子氏(九州大学応用力学研究所・特任助教)は「地球温暖化問題の現状と課題—我が国の最新の温室効果ガス排出・吸収量の算定結果と国際交渉における次期約束期間の今後の展望について—」と題して60分間発表した。そして、おやさと研究所からは佐藤孝則所員が「地球温暖化問題を『もの(者/物)を大切に作る心』の視点で考える」と題して30分間発表し、その後の30分間でそれぞれの発表内容に関しての質疑応答をおこなった。



第1回「宗教と環境」研究会で発表する早淵百合子氏(写真中央)。

第3回 宗教と環境シンポジウムを開催

佐藤孝則

11月10日(土)午後、おやさとやかた南右第二棟(陽気ホール)で、宗教・研究者エコイニシアティブ(RSE)主催、東洋大学国際哲学研究センター共催、奈良県宗教者フォーラム・天理大学・天理大学おやさと研究所後援による標記シンポジウムを開催した。

開会挨拶は飯降政彦氏(天理大学学長)がおこない、関西で初めて開催されるということで松長有慶氏(高野山金剛峯寺座主)が記念メッセージを



を寄せて開幕した。第3回宗教と環境シンポジウムの開催に対し「記念メッセージ」を寄せた松長有慶氏(高野山真言宗管長、総本山金剛峯寺座主)。

続いて、学士院賞を受賞した村上和雄氏(筑波大学名誉教授)が「すべての生物は『サムシング・グレート』からの贈り物」と題して基調講演をおこなった。

パネル発表では、最初に稲場圭信氏(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)が「東日本大震災から支えあう社会へ—持続可能な社会にむけて次世代へバトンを渡す責任—」と題して発表し、続いて佐藤隆夫氏(いって研究所代表取締役)が「『鳥翼風車発電機』開発と宗教的イニシアティブ」、井出留美氏(セカンドハーベスト・ジャパン広報・プロジェクトマネージャー)が「食料・環境問題の解決の一助となるフードバンク活動について」と題して発表した。その後休憩を挟んで、岡本享二氏(環境経営学会副会長)のコーディネートのもと「環境行動と『共生(ともいき)』へのみちのり」のテーマでパネル討論をおこなった。

閉会挨拶は西山茂氏(RSE副代表・東洋大学名誉教授)がおこない、武田道生氏(RSE運営委員・淑徳大学准教授)が次回開催校の代表として挨拶をおこなった。

約300名の参加者のうち170名ほどが一般参加者だったことから、このシンポジウムのテーマ「宗教と環境」が今日的テーマであり、一般にも関心の高い内容であることが示唆された。

グローバル天理

第13巻 第12号 (通巻156号)

2012(平成24)年12月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 深谷忠一

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan